

大規模災害時の時系列の流れと

事前活動

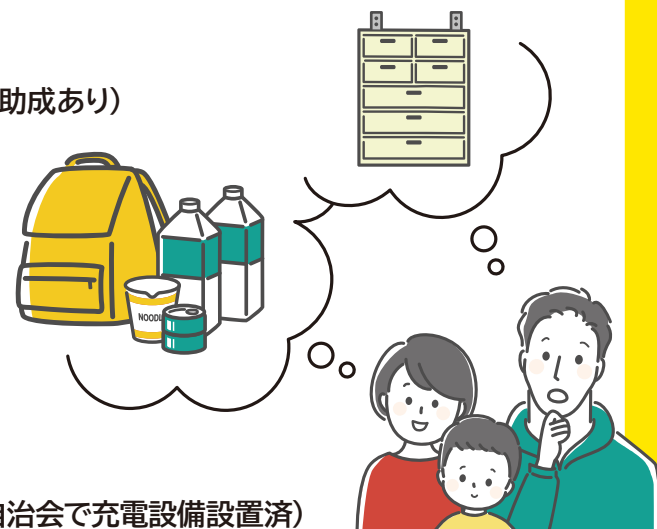
応急活動

北三丁目の地域特性を考え、特に「地震で死なない」ための事前活動と初期活動を考えましょう。

地震発生前（事前対策）

事前活動 参考例

- 家屋の耐震化（耐震診断・補強助成）
- 家具固定転倒防止の金具の取り付け（助成あり）
- ガラスの飛散防止
- 道路閉塞解消（生け垣助成）
- 危険個所の確認（まち歩き）
- 広域避難場所の確認
- 消火・救助・救援活動の訓練
- 要援護者・高齢者対策
- 災害時必要資機材の整備・点検
- 家族との連絡にスマホ等の充電設備（自治会で充電設備設置済）



地震発生

地震発生後（応急活動）

倒壊・家具転倒



- 阪神・淡路大震災では圧死の9割はほぼ即死（事前の備えで明暗）
- 負傷者の大半は家具とガラス
- 事前の対策次第で、マンパワーが増える（自助は最大の共助）

→ 一時避難場所へ

津波



- 相模湾の津波は早ければ5分以内に到達
- 浸水が懸念される地域は、津波一時退避場所や高い所へ避難
- 津波情報を確認する

→ 津波一時退避場所へ

火災



- 天井に火が届く前に初期消火（消火器、水道水）
- 消火できない場合は、移動式ホース格納箱で延焼阻止
- 身の危険を感じたら、火災の熱から逃げられる場所へ（風向きを考慮して、広域避難所へ避難）
- 避難する場合は、ブレーカーを落とす（通電火災予防）

→ 広域避難場所もしくは熱から逃れられる広い場所へ

防災MEMO

大災害時非常持ち出し袋は、市より配布されている「備えのガイド」を参考に各家庭で準備しておきましょう！

在宅避難
避難所
(小・中学校)

最大の目的は **東海岸北三丁目**

「地震で死なない」

自主防災会 組織図 連絡体制

大規模災害時 市で避難所を設置

- 震度5弱以上
- 警戒宣言発令
- その他市長が必要と認めた時

北三丁目の 地域特性

1. 木造住宅が密集
2. 道路が狭い
3. 空き家が多い
4. 北三丁目内に一時避難場所がない

地震が発生したら



① 地震の対応（強い揺れ・長時間の揺れ）

- ☑ 落ち着いて身を守る
- ☑ 火の始末
- ☑ 出口の確保



津波警報発表

② 津波一時退避場所や避難所等への避難

揺れがおさまったら状況を確認し、すぐに津波一時退避場所や標高が高い場所（高台）へ避難する。

地震直後は避難行動をためらわず、すぐに高い場所へ避難する。

③ 津波情報を入手

安全な場所で防災行政用無線、ラジオ、テレビ、携帯電話等から情報を入手する。

④ 自宅へ移動

津波警報が解除されたら、一時退避した場所から自宅に移動する。

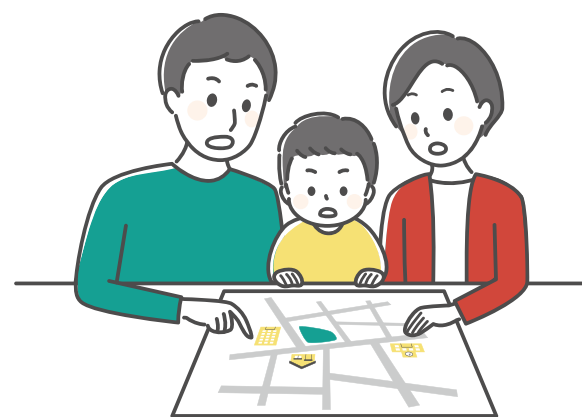
家族が待ち合わせる『避難所』は、各世帯で、日常から確認しておく。

⑤ 自宅または避難所での生活

自宅や周辺が安全であれば自宅で生活し、自宅で生活することが困難なときは避難所で生活する。

東海岸北三丁目 防災MAP

2023年度版(2024.3作成)



※ m = 海拔

避難所

- 1 茅ヶ崎小学校 2 東海岸小学校 3 第一中学校

一時避難場所

- 4 茅ヶ崎徳洲会病院 5 高砂緑地

※北三丁目地区は公園等がないため、各自で近くに少しでも一時避難ができそうな場所を事前に確認しておく。

津波一時退避場所

- 6 茅ヶ崎市美術館 7 アンリ茅ヶ崎

広域避難場所

- 8 GDO茅ヶ崎ゴルフリンクス(旧茅ヶ崎ゴルフ倶楽部) / 東海道線路またその北側

● 東海岸会館

■ 防災倉庫
カギは「000」で開錠

1~19 消火栓

1~9 移動式ホース格納箱
カギは「000」で開錠

【東海岸北三丁目 自主防災会】

組織図

対策本部長
(=自主防災会長)

本部要員

[=防災部長・防災委員(役員・防災リーダー)]

活動班

情報収集班

清掃・衛生班

給食・給水班

救出・救護班

避難・誘導班

【活動拠点・災害対策本部】

地域助け合いの拠点

- ・原則、●東海岸会館(震度5弱以上)
- ・状況に応じ■防災倉庫とその近隣
(警戒宣言発令、指定避難所が開設された時)

連絡体制

災害発生後、身の回りの安全確認。
また、火災が発生した場合は、初期消火に
努めるとともに災害対策本部へ連絡する。

災害対策本部

報告・連絡

- 地域内の安全確認、
情報を会長に連絡。
- 地域の被害状況を
災害対策本部に
伝える。また、避難所
を通して市に伝達。

相談

- 人出不足、
資機材不足等の
応援を求める。